

岩槻愛と魅力が詰まってる！ 和歌と絵画でつづる 「岩槻古城八景」



岩槻の古き良き風景を歌に詠み、絵に表した「岩槻古城八景」。明治時代、旧岩槻藩士たちにより、往時の岩槻を懐かしんで制作されたもの。岩槻の魅力がここに詰まっています。

岩槻古城八景に描かれたスポット

現在はこんな感じ！



右上／人々の憩いの場にもなっている久伊豆神社。左上／諏訪神社は岩槻区内にいくつかあり、岩槻古城八景に描かれたのはこちら。右下／岩槻城址公園と元荒川に挟まれた位置にある明戸天満宮。小さな神社ながら、地元の人々が大切に守ってきたことがわかる。左下／「船入口帰帆」に描かれた元荒川の流れ

現在の岩槻城址公園には、岩槻城は残っていません。明治維新後、城の敷地の一部が民間に売られたり、本丸があった辺りに道路が通ったりと、往時の岩槻城とまちなみの様子は、徐々に変わっていききました。

明治に入ってから、岩槻城の周辺には旧藩士が多く住んでおり、彼らが過去の岩槻の繁栄を懐かしんで制作したのが「岩槻古城八景」です。優れた風景から「八景」を選ぶという様式は、江戸時代から全国各地へ広まりました。八景の中で最も有名なものが「近江八景」です。「岩槻古城八景」も「近江八景」になぞらえて制作されたと言われています。

「岩槻古城八景」は、旧岩槻藩士の平野糸丸や児玉本也が中心となって企

画、描いたのは彼らが依頼した篤楽（読み方は推定）という絵師です。同時に、旧藩士たちが中心となって詠んだ160首の和歌で構成される「岩槻古城八景歌集」も制作されました。これらの絵画や和歌は、当時の様子を知らするための貴重な資料となっています。

ちなみに、さいたま市内では「岩槻古城八景」以外にも、江戸時代の俳人・鈴木莊丹が中心となってまとめた句集「与野八景句集」や、大宮氷川神社周辺の「大宮八景」、桜区に石碑が残っている「日向十景」などがあります。また、昭和60年に選定された「与野新八景」や、平成18年に市民からの応募で選ばれた「大宮二十景」など、現代でも優れた景色を選んで楽しむという方法は親しまれています。

さいたま市立博物館で「さいたま八景」展を開催

江戸時代、景色の良い場所を選んで絵画を描いたり、和歌や詩を詠んだりして風景を楽しむ八景文化が広がりました。全国各地の八景は1,100以上と言われています。本展では、市内の八景に関する絵画資料、句集や歌集等を中心に展示します。

「与野八景句集」

2021年3月6日(土)～5月5日(水・祝) / 9:00～16:30 / 毎週月曜休館(ただし祝日は開館)、祝日の翌日 / さいたま市立博物館 特別展示室
📍さいたま市大宮区高鼻町2-1-2 ☎048-644-2322 📠048-644-2313

古き良き岩槻の魅力表現した
これが「岩槻古城八景」だ！

「岩槻古城八景」の8つの絵画と、その風景を詠んだ和歌2首をご紹介します。旧藩士たちの岩槻城への思いが感じられるでしょう。

うのくびのせきしよる
鵜首夕照

城の入口である追手門とその前にある三日月堀。三日月堀の右上に冠木門、左右に三の丸西櫓、三の丸東櫓。登城する侍の姿も見える。

鵜首に夕日まばわく
てりそひて
紅葉の樹々も錦とぞ見る
本也

うの首や時雨はれゆく
夕ばへに 木々の紅葉の
てりにける哉
一誠

しろぐちのばんしよる
城口晩鐘

中央左下に波江口木戸があり、その上方に時の鐘が見える。中央には広小路付近が描かれ、右上に三の丸や追手門、冠木門が見える。

城口と名のみ残りて
夕暮は いよいよ
淋しき鐘の音かな
陰行

秋さればあわれ淋しき
城口に かねの音ひびく
夕暮のころ
本也

くるまばしのせいらん
車橋晴嵐

二の丸と三の丸を結ぶ車橋を中心に描かれている。右側には武器蔵や門が描かれ、左側には二重櫓など本丸部分が描かれている。

一点の雲を嵐の
ふきはらひ
あと昇る月の照る車橋
児笑

浮雲はあらしに晴れて
車橋 一人月のみ
渡る秋の夜
其道

たかだいのしゅうげつ
高台秋月

左側に三の丸、右側に新曲輪が描かれ、中央の空には満月と思われる丸い月が描かれている。右下に見えるのは諏訪神社。

くまもなく空すみ渡る
秋の夜は
ことにさやけし高台の月
梅雄

高台の月のかわらぬ
かげ見れば
君や昔ぞ忍ばれにける
花友

こめぐらあとのらくがん
米蔵跡落雁

正面中央が城米蔵のあった場所。後方左側に浄安寺、その右には飛来した雁の群れ、さらに右手に見えるのは久伊豆神社。

としふりて 今は野となる
米蔵の
あとに落来る 雁の幾むら
糸丸

秋のよによねのこぼれを
あさらんと
雁落来ぬる米蔵のあと
鶴成

ちやだいのぼせつ
茶屋台暮雪

本丸北側の御茶屋曲輪付近を中心に雪の風景が描かれている。左下には極楽橋、手前には天神曲輪にあった天神社が見える。

野も山も真白となりて
茶や台の けしき
はへある雪の夕ぐれ
糸丸

白妙にふりうづみたる
夕暮は 木の芽もわかぬ
茶や台の雪
陰行

ふないりぐちのきはん
船入口帰帆

中央左には本丸北側に位置する船入口門、中央上部に二本杉が描かれている。元荒川を行く船が手前に、中央の鳥居は久伊豆神社付近。

荒川のあらき浪間を
押きりて 船入口に
かへるともふね
梅雄

おくれじと真帆引つれて
夕まぐれ 船入口に
かへる友ふね
糸丸

じゅもくくろのやう
樹木郭夜雨

本丸と三の丸との間にあった樹木曲輪付近で、夜に雨が降っている風景を描いたもの。樹木曲輪の入口が大きく描かれ、人の姿も見える。

松杉の茂る木影に
闇の夜は 聞も淋しき
雨の音かな
一誠

幾本かかぞへはたせぬ
杉ばやし をとずれ
さびし夜半の雨哉
本也